

リサイクル技術振興会 (<http://www.rectech.or.jp>) とは

1. 歩み

- 1999年7月焼却灰焼成技術振興会として発足、同年9月焼却灰リサイクル技術振興会と改名。
- 2000年2月焼却灰焼成技術を、NPO リサイクルリユージョン(<http://www.recycle-solution.jp>) に登録。
- 2003年11月内閣府よりNPOの承認を受け、NPO リサイクル技術振興会と改名。2008年には法改正により監督官庁が内閣府から東京都になる。
- 2005年より焼却灰焼成を埼玉県寄居町で実施開始。

2. 何故振興会なのか？

- 実は我々が日常消費する家庭用ごみ（一般廃棄物）は、各自治体のごみ焼却場で燃やし減容化していますが、生じた焼却灰は有害で、最終処分場に1万円/T程度の費用をかけて処理されています。一般廃棄物発生量は、およそ1kg/日/人（全国で5千万トン/年）です。それを無害化する事から振興会が始まりました。
- 手法としては、焼却灰を焼成炉（代表的なのは陶器を焼く窯）で還元剤を添加して焼却し、生じた灰を造粒して道路基盤材等に再利用するものです。すなわち、1万円/T程度の費用で受入れ無害化するのです。
- その技術開発が、上記振興会の歩みです。従って、振興会のメンバーは法人会員が主体です。

3. 对外発表等

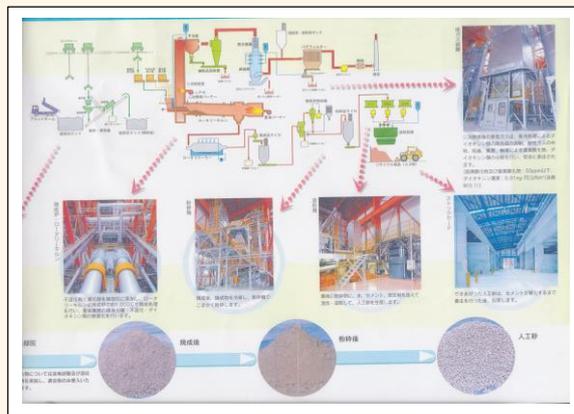
論文他：化学工業・土木学会・地盤工学会他 14 編、海外はカリフォルニアシンポジウムに 2 編・加ジャック環境セミナーに 1 編。セミナー等開催：3 回、見学会：5 回、事業参加、環境省・国交省、2007 年・無害化し造粒した人工砂を「アークソッド M」と称し NETIS 登録しました。

4. 主たる成果

上記の NETIS 登録の他は、一般ごみ焼却灰のリサイクル事業と言える。具体的には、埼玉県寄居町の、「彩の国資源循環工場」において、2005 年から(株)埼玉ヤマゼンにてリサイクル事業を開始、2011 年より株式会社テック埼玉(株)によって継続されています。

昨年迄にリサイクルされた焼却灰の総量は、約 50 万トンです。

その他としては、振興会や関係者の活動があります。その主なものを列挙すると、浙江工業大学との杭州市に於けるリサイクル現況の共同研究（2011 年 10 月現地事前調査・2013 年 8 月浙江工業大学教授 3 名来日現況報告実施）及び、振興会顧問の宇都宮大学今泉先生による最終処分場の止水性能の体系的な研究が挙げられます。



5. その他

苦労して、一般ごみ焼却灰のリサイクルを焼成炉で再度焼く事を実現しましたが、費用 1 万円/T 程度でリサイクルするのはぎりぎりの採算です。他の業者さんが進出されないので事情がお分かりと思います。

振興会としては初期の目的を達成したので、ここ 1 ~2 年で解散することを考えています。
以上